

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析及び結果

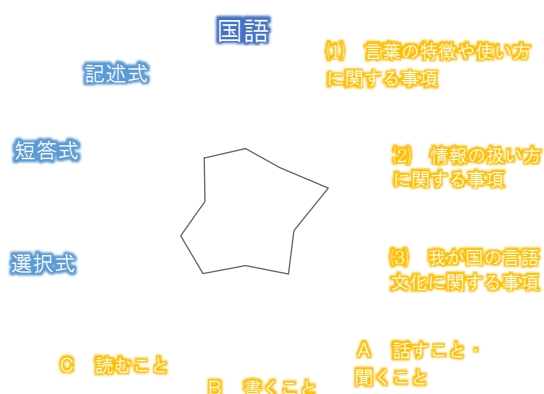
我孫子市立布佐小学校

「教科」に関する調査について

国語

学習指導要領の領域の平均正答率

○知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」・「情報の扱い方に関する事項」・「我が国の言語文化に関する事項」の全ての項目において、全国平均を下回っていた。



△思考力、判断力、表現力等の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全ての項目において、全国平均を下回っていた。特に「書くこと」については、事実・感想・意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように工夫することに課題が見られた。また、問題形式においては、短答形式に苦手意識があり、要旨をつかんで解答することに課題が見られた。

☆調査結果からの今後の取組について☆

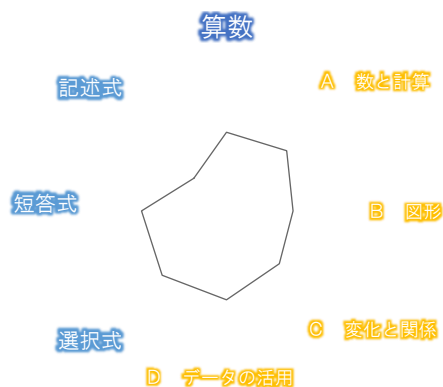
◎資料を読んだり話を聞いたりしながら、内容を捉え、自分の考えをまとめる

- ・学習場面で、「伝える」「発表する」等の対話的活動を増やす。
- ・話し手の目的や意図を考えて聞く機会を設け、要旨を理解する力を伸ばす。
- ・学校図書館や移動図書館を有効活用し、読書の時間を確保する。
- ・ICT を活用しながら「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進していく。

算数

学習指導要領の領域の平均正答率

○全体の平均正答率では、全国平均よりやや下回っている。国語に比べ、無回答率が高くなっており、課題となっている。



△「図形」の領域では、全国平均を大きく下回っており、特に、球や角柱等の立体図形についての理解に課題が見られた。

また、問題形式においては、記述形式に苦手意識があり、答えの求め方や自分の考え等を文章で表すことに課題が見られた。

☆調査結果からの今後の取組について☆

◎自他の考えを整理して説明したり、文章で表したりすることができる

- ・学習場面で、「伝える」「発表する」等の対話的活動を増やす。
- ・類題に取り組みながら、文章問題の意図を明確に掴む。
- ・ICT を活用しながら、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進していく。

「自尊意識・生活習慣」に関する調査について

～児童に対する質問紙調査結果より～

○教科への関心・意欲・態度

- ・「国語の勉強は好きか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、全国の調査結果とほぼ同程度であった。「国語の授業は大切であり、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した児童は9割以上であった。

- 「算数の勉強は好きか」という問いに対して「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が半数を超えていたことから、算数学習への苦手意識が窺える。
「算数の勉強は大切」と回答した児童は8割であった。

○家庭学習や生活習慣

- 家庭学習時間は、平日および休日ともに1時間未満の児童が6割強を占めている。
- 毎日決まった時刻に寝たり、朝食を食べたりすると回答した児童は9割程度であった。
- 授業時間以外に勉強のためにICT機器を使っている時間は、全国の調査結果より長い傾向であった。しかし、ゲームや動画視聴等の時間も長く、1日の生活習慣に課題が見られる。

○規範意識や自己有用感

- 「人が困っているときは進んで助けている」と回答した児童が全国の調査結果より高かった。
- 「自分には良いところがある」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童は、全国の調査結果と比べやや高かった。